都市再生整備計画

大竹（おおたけ）地区

広島（ひろしま）県　大竹（おおたけ）市

令和6年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォーカブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	広島県	市町村名	大竹市（おおたけ）	地区名	大竹地区（おおたけ）	面積	84.15 ha

計画期間	令和 6 年度 ～ 令和 10 年度	交付期間	令和 6 年度 ～ 令和 10 年度

目標

大目標： 大竹駅の都市機能向上と連携した周辺地域の安全で快適な生活環境の創出
目標1：都市機能の向上や快適な生活環境の創出による住民満足度の向上
目標2：交流広場の整備に伴う賑わいの創出
目標3：駅周辺の利便性向上による大竹駅乗車人員数の維持

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）

本市では、令和5年3月に「大竹市立地適正化計画」を策定しており、「賑わいと住みよさをつなぐ、安全・安心なまちづくり」をまちづくりの方針として掲げ、以下の3つの方向性を念頭に、都市機能や居住機能の誘導を図っていくこととしている。

○エリアの利便性・魅力向上
中心市街地における未利用地や低利用地、公共施設の既存ストック等の有効活用による都市機能の誘導を図るとともに、大竹駅及び市役所周辺の賑わいの創出、まちなかの再生を図る。
○まちなかの良好な居住環境の確保
居住誘導区域内の人口密度を維持し、地域コミュニティの維持・活性化や効率的な生活サービスの確保、居住環境の維持・向上を図るとともに、災害リスクを考慮したハード・ソフトの防災対策を実施する。
○公共交通を軸としたまちづくり
公共交通による都市機能や誘導施設へのアクセス向上を図るとともに、既存の公共交通利便性の高いエリアへの都市機能や居住環境の誘導を行う。

まちづくりの経緯及び現況

・大竹地区では、主要な交通インフラであるJRの線路や国道2号が南北に整備されており、その周辺に商業地域や居住地域などが広がっている。また、工場地域や港湾施設等の建設のため、昭和40年代より段階的に沿岸部を埋立整備してきており、平成18年に地方港湾大竹港の公共岸壁（水深-11m）が完成したことで、その後は臨海工業地帯に関連する企業の物流拠点港としても重要な役割を担っている。
・地区の中心地にはJR大竹駅があり、地区の南側には一級河川小瀬川が流れている。西側は山間部、東側には大規模な工場地帯、その先には瀬戸内海が広がっている。
・人口については、高度成長期の昭和50年頃をピークに減少傾向にあるが、市内でも最も人口の多い地区であり、減少率については他の地域に比べ緩やかである。
・JR大竹駅では、橋上駅および自由通路の整備が令和5年2月に完了し、駅西側だけでなく駅東側からの利用も可能になるなど、利便性が大きく向上したものの、東西広場や駐車場、駐輪場等の整備がまた途中段階である。
・市街地内に存在している市道は狭隘な道路が多く、埋立の段階毎に整備されてきたこともあり、変則的な交差点や幅員の狭い道路などが多数存在している状況である。
・地区内の公共施設には、建設後50年以上の経過した施設もあり、今後公共施設の改修や再編が必要である。

課題

・JR大竹駅の橋上駅および自由通路の整備完了により、東西からの駅利用が可能となったが、利用状況が大きく変化したことから、変化に応じた公共施設の改修や再編、新たな賑わいの創出などが必要である。
・地区内の保育所が合併することに伴い、子供たちの安全に配慮した周辺整備が必要である。
・老朽化した公共施設の廃止等に伴い、新たな定住人口の増加のための利活用策の検討が必要である。
・更なる利便性や安全性の向上のため、都市計画決定に基づく街路整備や、地区内の道路改良の促進が必要である。

将来ビジョン（中長期）

○大竹市まちづくり基本構想（令和3年3月）
2050年の大竹市のあるべき姿を考え、幸せづくりの未来のため、「自然・暮らし・産業が調和した魅力あふれるまち」「あたたかい心で支えあい、笑顔が生まれるまち」「新しい歴史と文化の創り手として、未来に誇れるふるさと」をつくることを宣言した構想
○大竹市まちづくり基本計画＜第1期＞（第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略）（令和3年3月）
基本構想の理念や将来像を踏まえ、まちづくりの具体的な方向性を示した実施計画
○大竹市マスタープラン（令和元年10月）
基本構想等の上位計画を踏まえ、主に都市計画区域内のまちづくりに関する具体的な方針をした総合的な指針
○大竹市立地適正化計画（令和5年3月）
基本構想やマスタープラン等の上位計画を踏まえ、人口減少社会においても人口密度を維持しつつ、都市機能や居住誘導機能を考慮した「コンパクト・プラス・ネットワーク」の推進による行政サービスの維持・向上を目指す計画

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・本市では、医療・福祉・商業等の各種サービスの効率的な提供を図るため、鉄道駅に近い商業集積地域や交通アクセスの利便性が高い地域、避難所等の防災機能などを考慮して都市機能誘導区域を設定しており、行政機能や介護・福祉機能、医療機能や商業機能、金融機能等の誘導施設を幅広に設定している。
・このうち大竹地区については、交通結節点となるJR大竹駅を中心に、商業機能や子育て機能、金融機能、災害拠点施設やバス路線などを考慮した都市機能を設定しており、利便性の高い地域となっている。
・本計画では、JR大竹駅を中心に概ね半径1km圏内の範囲（84.1ha）を都市再生整備計画区域に位置付け、大竹駅周辺整備に伴い再編する自転車駐輪場の改修やバリアフリー公衆トイレの整備、再編・合併を行う大竹保育所周辺の安全対策、地区内の利便性や安全性向上のための道路改良など、都市機能の誘導促進のための事業を行い、持続可能な都市構造への再編を推進するものである。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方　※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

・大竹地区内にある誘導施設の大竹保育所（児童数約80人）と本町保育所（児童数約40人）は、施設の効率化（公立保育所の適切な配置）や施設等の改善及び多機能化などのため、令和6年4月に再編・合併を予定し、施設の改修（一部増築）を行うこととしており、再編後の大竹保育所では児童数が大幅に増えることから、保育所周辺における安全対策が急務となっている。
・このため、目標の一つである安全で快適な歩行者空間の創出の達成のために、保育所に隣接する狭隘道路の拡幅（歩道整備）を行う。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
快適さ・暮らしやすさなどの満足度	%	大竹地区が「快適で暮らしやすい」と感じる人の割合（アンケート）	大竹地区の生活に必要なインフラ（鉄道・道路など）が整い、快適な生活環境になっていると感じる割合（満足度）が増加する。	61.4%	R4年度（R3年度実績）	65.0%	R10年度
イベント等の開催回数	回／年	大竹駅西口に整備予定の交流広場における1年間のイベント開催回数	駅前交流広場が地域住民や利用者等に積極的に活用されることで、地域全体の新たな賑わいが創出される。	2回／年（広場整備前）	R4年度	10回／年（広場整備後）	R10年度
大竹駅の乗車人員数	人／年	大竹駅を利用する乗車人員数 ※乗降客数ではなく、乗車のみの人員数	大竹駅前広場や周辺環境の整備等により、駅の利便性が向上し、年々減少傾向にある大竹駅の乗車人員数が維持される。	2,700人／年	R4年度	2,700人／年	R10年度

都市再生整備計画の整備方針等

様式（1）-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【エリアの利便性・魅力向上】 ○大竹駅の橋上駅化・自由通路の整備に併せ、駅周辺環境の利便性や魅力向上のため、街路事業の新規着手や、市道の改良（無電柱化）、駅西口の公衆トイレ整備（バリアフリー対応）を行う。	【基幹事業】 ・高質空間形成施設（大竹駅西口　公衆トイレ（バリアフリー対応）） 【関連事業】 ・街路事業（市道　駅前油見線） ・無電柱化推進計画事業（市道　北栄南栄1号線）
【まちなかの良好な居住環境の確保】 ○令和6年4月に統合を予定している大竹保育所（本町保育所と統合）では、園児や保護者の増加に伴う保育所の改修が必要であるが、隣接する市道が狭隘なため、保育所の改修等に併せて歩道を含めた道路改良（拡幅）を行う。 ○老朽化や耐震性不足に伴い解体する市営住宅跡地において、更なる定住人口増加を目指し、良好な居住環境の確保のための市道改良を行う。 ○大竹駅の橋上駅化・自由通路の整備に伴い交通量が増加している東口に面する市道において、歩行者の安全確保のための市道改良を行う。 ○通学路の歩道未整備区間において、児童等の安全確保のための市道改良を行う。	【基幹事業】 ・道路（市道 白石元町1号線） ・道路（市道 北栄南栄1号線） 【関連事業】 ・公立保育所統合等整備事業（大竹・本町） ・道路（市道　油見15号線） ・道路（市道　南栄下白石線）
【公共交通を軸としたまちづくり】 ○大竹駅の橋上駅化・自由通路の整備が令和5年2月に完了し、東西からの利用が可能となったが、玄関口となる広場整備がまだ途中段階のため、令和6年度までの広場整備完了を目指す。 ○また、駅の東西利用が可能となったことで、自転車の利用動向が大きく変わったことから、実態に応じた駐輪場の整備を行う。	【基幹事業】 ・地域生活基盤施設（大竹駅西口　自転車駐車場） 【関連事業】 ・街路事業（市道　駅前油見線（大竹駅 西口広場））

その他

【住民参加】
・大竹駅西口の交流広場の整備に当たっては、地域住民参加の活用方針策定ワークショップを計3回（令和元年10月、令和元年12月、令和2年2月）開催し、整備計画に反映させるだけでなく、整備後の活用方針も取りまとめている。

【官民連携】
・大竹駅西口の駐輪場やトイレ整備に当たっては、既存地の有効活用も含め、民間事業者との連携の可能性について検討している。

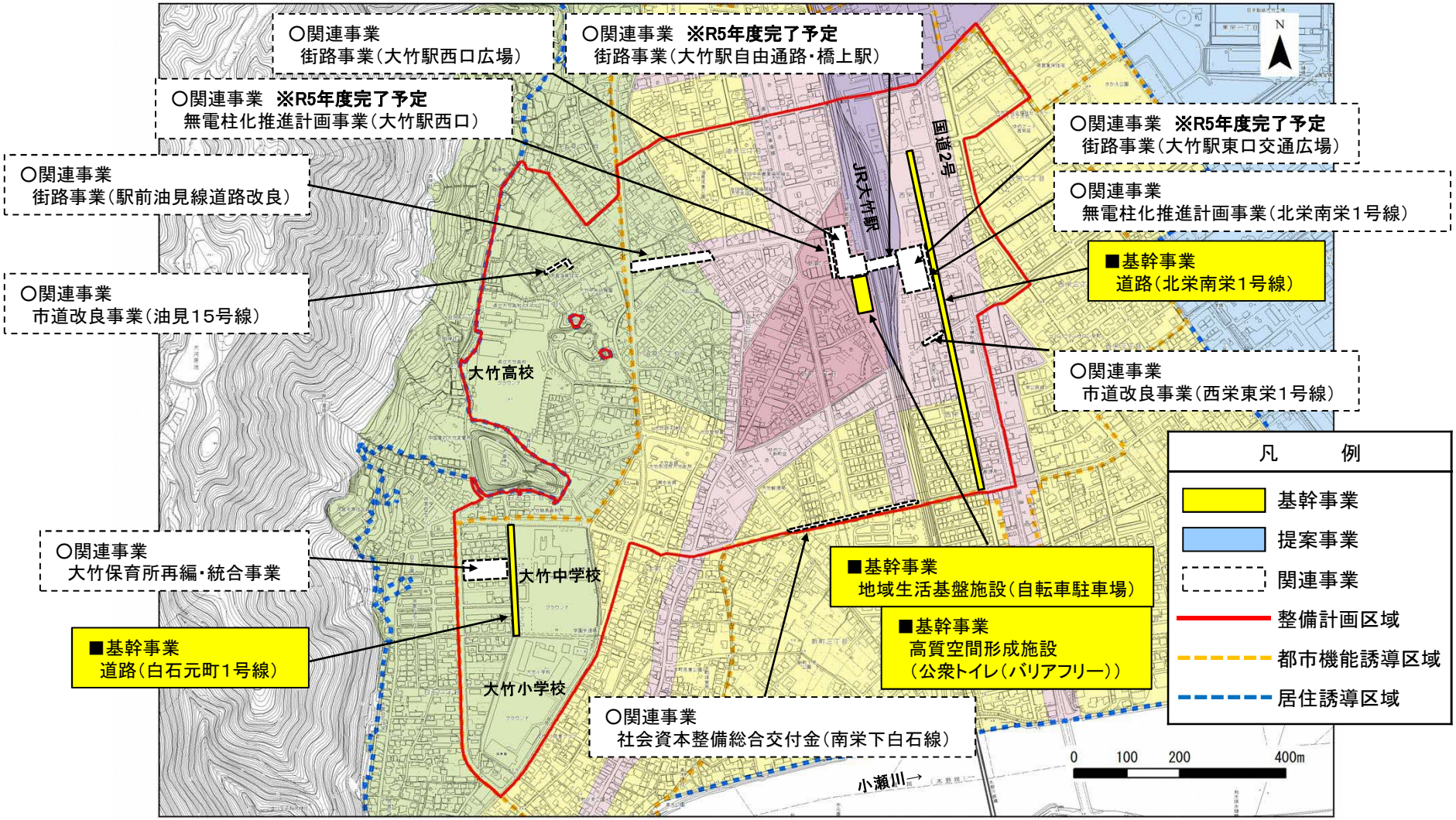
【関連計画】
＜大竹駅周辺整備新構想（平成24年2月 大竹市）＞
「大竹駅周辺地区総合再生計画基本計画（平成8年3月）」から15年が経過し、社会環境が大きく変化したことから、大竹駅周辺のまちづくりや整備の在り方を「新構想」として見直したもの。駅東西間を結ぶ自由通路や、交通広場などの整備等による交通ネットワークの形成を推進するとともに、移動や施設の利便性・安全性を向上させるためのバリアフリー化の推進し、5つの目標を掲げている。

①東西に分断されたまちの一体化・回遊性の向上　②駅及び周辺空間のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化　③駅及び周辺空間の賑わいづくり、魅力的で便利な生活拠点づくり
④交通拠点・交通結節点としての機能の改善・向上　⑤交流・憩い空間の創出と魅力的な景観の形成

＜大竹駅周辺地区 バリアフリー基本構想（令和2年10月　大竹市）＞
「大竹駅周辺整備新構想」に基づき、大竹駅を中心とした一定範囲において、公共交通機関や道路・建築物等の一体的な整備を推進し、誰もが安心・安全に、まちを移動し、施設が利用出来るバリアフリー化されたまちの実現を目指すために策定した基本構想。

＜大竹市自転車活用推進計画（令和2年4月　大竹市）＞
「広島県自転車活用推進計画」を基本として、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における依存の程度を低減することによって、公共の利益の増進に資するため、大竹市の自転車活用推進計画を策定したもの。

＜大竹市無電柱化推進計画（令和2年4月　大竹市）＞
「広島県無電柱化推進計画」を基本と市、災害の防止や安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成などを図るため、大竹市の無電柱化推進計画を策定したもの。

大竹地区（広島県大竹市）　整備方針概要図（都市構造再編集中支援事業）

目標	大目標：　大竹駅の都市機能向上と連携した周辺地域の安全で快適な生活環境の創出 【目標１】都市機能の向上や快適な生活環境の創出による住民満足度の向上 【目標２】交流広場の整備に伴う賑わいの創出 【目標３】駅周辺の利便性向上による大竹駅乗車人員数の維持	代表的な指標	快適さ・暮らしやすさなどの満足度（%）	61.4	（R4年度）	→	65.0　（R10年度）
			イベント等の開催回数（回／年）	2	（R4年度） ※広場整備前	→	10　（R10年度） ※広場整備後
			大竹駅の乗車人員数（人／年）	2,700	（R4年度）	→	2,700　（R10年度）